



東大寺 212 世別當 筒井寛秀 筆

No.50

2022.1.15

【発行】

奈良県肢体不自由児者父母の会連合会

<http://www.narakenshiren.gr.jp/>

【発行責任者】 前田 妙子

【メールアドレス】

honbu@narakenshiren.gr.jp



新年のご挨拶

会長 前田 妙子

新年あけましておめでとうございます。

平素よりご支援、ご協力をいただいております皆さま方に心より感謝申し上げます。

「道」50号に思うこと～

当会の広報誌「道」は今回で50号を迎えることとなりました。年に2回の発行で四半世紀にわたりその時々の方の活動や親の思い、研修会や見学会の報告や感想を載せてまいりました。広報誌を紐解けば、その時代にどのように考え活動してきたかよくわかります。サービスも何もない時代から、徐々に障害者福祉制度が整い、地域で暮らしやすくなってきましたが、今は、親の高齢化や障害者本人の重度化が課題となっており、その時々の方の課題やニーズが読み取れます。「道」は父母の会活動の足跡であり、どの時代の「道」も障害のある子どもを思う親の愛情があふれています。障害のある子ども達のそれぞれの「道」が明るい未来へと続くようにと願い、広報誌「道」を通して障害者理解につながるように充実した内容で今後も発行していきたいと思っております。

コロナ禍での活動～

第16回南都諸大寺チャリティー墨書展・奈良まほろば館チャリティー書画展

昨年は30年以上前から2年に一度開催してきたチャリティー墨書展の年でした。コロナ禍であることから開催していいものかと随分と悩みましたが、東大寺別當狭川普文さまから「南都諸大寺のご高僧の方々は子ども達のことを思いご揮毫くださり、会場に足を運んでくださる方々は、子ども達のことを考えて笑顔になり、その笑顔が子ども達の未来を支えてゆくものだから工夫して開催しましょう」と背中を押していただき、できうる感染症対策を講じて開催させていただきました。12月には、東京新橋にリニューアルオープンした奈良まほろば館でも、チャリティー書画展を開催することができ、無事2つのチャリティー事業を終えることができました。今回の収益は、会の活動資金だけでなく、会員の子供達がお世話になっている県下約50か所の医療・看護・教育・介護の関係機関へサージカルマスクの寄贈、災害義援金、奈良県新型コロナウイルス感染症対策基金への寄付に使わせていただきました。改めまして開催にあたり支えていただきましたすべての方々に感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染拡大からほぼ二年。出口が見えない閉塞感を抱えて過ごしてまいりましたが、ワクチン接種が進み、感染予防の新しい生活様式を取り入れながら少しずつですが日常を取り戻しつつあります。しかし、オミクロン株の感染者が日本でもみつきり、まだまだ気を緩めることはできません。会の活動も感染予防対策をし、コロナ禍でもできることを模索しながら進めていきたいと思っております。今年もどうぞよろしくお願いいたします。



(高岡哲也さん 書)



「道」50号の発行を祝う

華嚴宗管長・第223世東大寺別當 狭川 普文

ひたすら我慢の2年を乗り越え、令和4年を迎えることとなりました。それぞれに大変な2年間でしたが、それまでの当たり前の時間は、どれほど多くの人達の関わりによって成り立っていたのかを、改めて再認識されたことと思います。

東大寺福祉事業団では現在、華嚴宗管長が役職当てで総裁職を兼務することになっています。2年毎に奈良県文化会館で開催されている「南都諸大寺チャリティー墨書展」の企画運営にも長年関わってきた私としては、管長在任の最後の展覧会となるので、令和3年1月から秘策を練ってきました。

①令和3年9月の「南都諸大寺チャリティー墨書展」について

「道」50号発行を祝して、今年の活動をふりかえってみたいと思います。

令和2年11月に大仏殿集会所で開催した東大寺福祉事業団のチャリティー展では、東大寺所蔵の瓦を拓本にした料紙に長老方に揮毫して貰った所、好評でしたので、南都諸大寺の高徳の皆さんにも、各寺の瓦の拓本を提供して貰うようお願いしました。

また、コロナ禍対策のため前田会長さんを初め事務局のお母様方は、体温測定 of 機器類や手指消毒のアルコール液、順番待機場所の確保、申し込み用紙を事前に配付すること、会場内の一方通行など、奈良県文化会館さんの協力を得て打ち合せを重ねて来られました。新聞各社も広報に協力して下さいました。

何度も緊急宣言が出たので、9月の開催が危ぶまれたこともありましたが、前回より少ない来場者数だったにも拘らず、売り上げ総額はかなり増収となりました。

南都諸大寺の高徳の皆さんは子ども達に寄り添い、作品を観にくる皆さんは子ども達のことを考えて笑顔になり、その笑顔が子ども達の未来を支えてゆくことになるのです。

搬入日も含めて9月10日から12日まで、事務局のご努力と会員の保護者の皆さんの団結力の為せる技が光った3日間でした。

②創作の経緯

令和3年の修二会は、行に参加する39名全員が陰性のままで1ヶ月間籠る必要があるため、2週間の隔離期間が求められ、参籠32回目の私も2月6日から自坊で自肅生活を送ることになりました。朝の法要も昼間の仕事も携わってはいけないということで、その時間を創作活動に当てることにしました。通常であれば、公務を終えて帰宅し、夜になってからチャリティー用の作品を創作していたのですが、一日中絵を描けるわけですから、パステル画用のキャンソン紙や画材、板絵の用材や額縁など大量に買い込んで隔離期間に突入しました。正直、この2週間は楽しい時間を過ごすことが出来ました。

去年は、9月の県肢連、11月の事業団、12月の奈良まほろば館以外に、東大寺学園中高等学校及び幼稚園の文化祭の5箇所作品を提供する必要があったため、約250点を創作しました。毎年アジアの仏跡巡拝に赴き、各地でスケッチしてくるのが楽しみでしたが、令和2年～3年は海外に行ける状況では無く、やむを得ずこの10年間に巡拝した仏跡（インド、ネパール、ベトナム、カンボジア、ブータン、スリランカ）と、令和2年に奈良県の主催の展覧会で渡英した大英博物館所蔵の仏像をモチーフとして作品に仕上げることにしました。修二会を満行した3月15日の翌日から再び創作活動を開始。宇宙大好きな私としては、「はやぶさ2」の活躍、スパコン「富岳」の実績、量子コンピューターの開発なども讃文に反映したいし、執金剛神の模刻像2躯が寄贈されたことに併せて東大寺の諸尊像もたくさん描きました。

③令和3年12月の「奈良まほろば館チャリティー書画展」について

次に、東京新橋に新しくオープンした「奈良まほろば館」でのチャリティー展が控えています。これも「奈良まほろば館」さんの全面協力を得て、会場の図面や備品の様子などを細かく教えて戴きました。2階の会議室を拝借するのですが、作品を展示する真っ直ぐの壁面が無く、ガラス面とカーブ面をどのようにアレンジするか悩みましたが、机をいくつか借りることが判明したので、そこに台紙貼りを展示するパネルとそれを自立させる足を自作することにしました。会場の真ん中に机を縦に並べ、そこにパネルを置き両面に台紙貼りを展示するという算段です。私のパステル画はイーゼルや皿立てを使い、1階にあるギャラリーには額仕立ての諸大寺高德の作品を展示しました。令和2年の12月はコロナ禍のため、日本橋にあった旧まほろば館の使用は中止となったので、今年是新橋で初めての展覧会となりましたが、来年の開催に向けて今までとは違う企画を構築する必要があるように思われます。総裁在任の3月末までに次なるアイデアを策定し、次期総裁に引き継ぎたいと考えております。

チャリティー展開催に関わる全ての人々に感謝申し上げ、子ども達の活動が充実したものになるよう願っています。

父母の会に寄せて



福祉医療部長 石井 裕章

新年あけましておめでとうございます。

前田会長様をはじめ、奈良県肢体不自由児者父母の会連合会の皆様には、平素から奈良県の障害福祉行政の推進に深いご理解とご協力を賜りまして、誠にありがとうございます。

新型コロナウイルス感染症が依然として収束を見せない中、障害のある方が感染や感染疑いとなる不安、ご家族の方が感染し不在となることへの不安等、様々な不安をお持ちのことと思います。県においては、コロナ禍においても障害のある方やご家族、介護者の方が地域で安心して生活を送ることができるよう、入院・療養体制の整備や、障害福祉サービス継続のための感染予防対策、在宅障害児者の支援体制について市町村等の関係機関とともに取り組んでまいりました。今後も最新の情報をもとに、状況に応じた適切な支援策を継続、検討してまいります。

さて、皆様のご支援・ご協力のもと、「奈良県重症心身障害児者支援センター」を令和3年1月に開設してから1年が経過しました。このセンターには専門相談員を2名配置し、福祉・医療両面から広域的・専門的に相談に応じ、関係機関の連携・調整、人材育成等を行うことにより、重症心身障害児者・医療的ケアの必要な方とそのご家族のための相談支援体制の構築をサポートできるよう、取り組んでおります。開設から現在に至るまで、ご家族や関係機関の方から、数多くの相談が寄せられました。相談一つ一つに向き合い、適切な助言や関係機関との連携が行えるよう、今後も皆様に寄り添った支援を続けてまいります。

また、県では、令和3年4月に、重症心身障害児者・医療的ケアの必要な方が身近な地域において生涯にわ

たり支援を受けられるよう、施策を総合的かつ計画的に推進するための「奈良県重症心身障害児等の地域生活の支援に関する条例」を施行しました。県重症心身障害児者支援センターにおける取組のより一層の充実を図るとともに、重症心身障害児者・医療的ケアの必要な方が日中通える場所や、介護者の負担軽減となる医療型短期入所事業所等の「居場所づくり」を、特に不足している県東部・南部において推進してまいります。

国においても、令和3年9月に、医療的ケア児及びその家族が個々の心身の状況に応じた適切な支援を受けられるよう、国、地方公共団体の責務や、保育・教育の拡充にかかる施策等について定めた「医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律」が施行されました。

これら条例や法律の制定の背景には、重症心身障害児者・医療的ケアの必要な方が年々増えていることや、その実態が多様化し、支援の充実が課題となっていることがあります。県では、今後の施策の推進にあたり課題をより詳細に把握するため、「奈良県重症心身障害児者等アンケート調査」を、前田会長様と事務局の皆様のご協力のもと、令和3年12月末頃より配布し、会員の皆様にも調査へのご協力をお願いさせていただきました。ご多忙の中ご協力いただきました父母の会連合会の皆様、関係の皆様には感謝を申し上げますとともに、アンケート調査にて集約した課題や皆様の声を今後の県の施策に生かしていきたいと考えております。

奈良県肢体不自由児者父母の会連合会の皆様には、今後ともより一層のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



養護学校より



しあわせについて

奈良県立奈良養護学校
校長 白濱 菜穂美

奈良県肢連の皆さまには、日頃より本校教育の充実のためにご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

新型コロナウイルスの感染拡大も全国的に沈静化し、ほっとしたのもつかの間、また新しい株が国内でも確認され、見通しの立たない不安な気持ちになります。

さて先日、第49回奈良県障害児者作品展（北和展）が、奈良県文化会館で行われておりました。工芸・書道・絵画・手芸などさまざまな作品が展示されていました。本校の児童生徒の作品も多く展示されており、見学していると教室での子どもたちの頑張りや笑顔が思い出されました。

教諭時代は、子どもたちの個々の課題にどのように向き合うか、可能性を追い求め実践する日々でした。いろんな先輩の授業実践を手本としたり、いろいろな参考文献と向き合ったりしながら家事や育児と忙しい日々の中で教材研究に励んだものでした。

その中で、授業で「さをり織」に取り組んだことがあります。子どもたちが糸を選び、それを一本一本丁寧に織り、思い通りの作品に出来上がったり、イメージしている以上に味のある作品に出来上がったり。そして、同じ作品は二度とできないという面白さを感じていました。

私の大好きな歌に中島みゆきさんの「糸」があります。歌詞の冒頭部分では、「なぜめぐりあうのかを私たちは誰も知らない」とあります。そして最後に「縦の糸はあなた。横の糸は私、逢うべき糸に出逢えることを人は仕合せと呼びます」で終わっています。「しあわせ」は、「幸せ」ではなく「仕合せ」なのだと思いに思い調べてみました。「幸せ」の「幸」という漢字は「夙」（ゲキ）と

「夭」（ヨウ）で構成されている。「夙」は逆らうこと「夭」は死ぬことであり「幸」は「死ぬことに逆らう」生きることである。「不幸」とは、「死ぬことに逆らえない。」ということである。「幸」のしあわせは、生きることが「しあわせ」という意味である。とありました。

「仕合せ」はどうかといいますと「仕合せ」は、仏教用語に由来しているそうです。

「仕」+「合わせる」と考え、様々なことが重なり合っていて、物事は成り立っている。良いことも悪いこともすべて含めて「しあわせ」である。人生良いことだけが「しあわせ」ではなく良いことも悪いことも含めて「しあわせ」と感じる事が大切である。とありました。

コロナ禍において直接的なふれあいの場面が制限される中ですが、学校行事や日常が戻りつつあります。本校でもこれまでも、そして、これからも、たくさんの方が様々な活動を通しての出会いがあると思います。教職員と児童生徒は教育活動を通じて、保護者や地域の方々には本校教育の活動全般を通じて出会いがあります。それぞれの糸が出会い一枚の布に仕上がっていくのを校長として支えていけるように努力して参りたいと思います。

また、「どんなこともおかげさま」という思いを持ち、二つの「しあわせ」の意味を大切にしながら、多くの方々と共にたくさんの「しあわせ」を感じて日々を歩んでいきたいと思っています。

今後とも奈良県肢連の皆さまには、学校教育に対して、ご支援ご協力くださいますようお願い申し上げます。



作品展優秀賞
生活介護やすらぎ広場
合同作品
「秋の実りと赤とんぼ」

活動報告



ハンドアーチェリー大会(奈良予選)

日時:2021年8月7日(土)13:30~15:00

場所:県営福祉パーク 多目的運動ホール

参加者:24名

1位 田口昂大・柏本ペア

2位 河野知洋・正子ペア

上位2組は、オンライン全国ハンドアーチェリー大会に出場します。

大和郡山市 河野正子

ハンドアーチェリー奈良県予選大会のお誘いがあり、コロナ禍で、修学旅行も延期になり、どこにも連れて行ってあげられない息子に「どうする?」と聞くと「やりたい。シューツとカッコいいで」とニコニコと返事があり、わくわくしながら参加申し込みました。当日は、しっかりした感染予防対策をして下さり安心して挑むことができました。

補助具の使い方がわからず、モタモタしていると周りのお母さん達がテキパキと準備とアシスタントして下さい、私も見様見真似でお手伝い。

ハンドアーチェリーは、どこでも、だれで安全に楽しめるスポーツだと聞き、本当にその通りだと思いました。そして、ペアで行い10本ずつ投げる間の一喜一憂すること親子で、支援者さんとの絆も生まれます。

息子のハサスという補助具で当てきしたのと、私の疎いながらも投げ点数を押し上げたことからか2位になりました。とても、楽しいリクリエーションの時間を過ごすことができました。

今後の課題として、次の試合に向けてピンを投げる練習をせ



ねばと心に誓い、役員さん達に感謝の言葉を贈ります。ありがとうございました。

親子県外交流事業
音楽を楽しむ会

日時:2021年10月9日(土)

会場:いかるがホール小ホール

出演者:金関環さん(ヴァイオリニスト)

宮川真由美さん(ピアニスト)

参加者:40名



「音楽を楽しむ会」に参加して

奈良市 芳田公世

10月9日(土)いかるがホールで行われた、県肢体不自由児(者)親子県外交流事業、音楽を楽しむ会に参加しました。

ヴァイオリニストの金関環さんとピアニストの宮川真由美さんによる軽快なトークと素晴らしい演奏でした。1部では、愛の挨拶やツイゴイネルワイゼンなどクラシックの名曲を6曲、2部では、ディズニーメドレーやタンゴの有名曲などバラエティに富んだ内容で、身近に生のヴァイオリンやピアノを聞くことができ、このコロナ禍の中でとても幸せな時間を過ごすことができました。

娘のかおりもきれいな音色にうつらうつらしていましたが、知っている曲になると目を覚まし、じっと真剣に聞き入っていました。周りのお友達も、みんな曲に合わせて

体を動かしたり、普段なかなか経験できない生の音楽に触れる機会を楽しんでおられました。

最後になりましたが、心に残る素晴らしい演奏を届けていただいた金関さんと宮川さんに感謝申し上げ、またこのような楽しいコンサートを企画していただいた前田会長はじめ本部役員の皆様には心からお礼を申し上げます。

本当にありがとうございました。



奈良市 深野泰史

久しぶりに演奏を生で聞けることを楽しみに、息子と二人で参加しました。弓先から響く柔らかなピアノニッシモから、弦の軋みまで感じる力強いフォルテまで表情豊かなヴァイオリンと、時に甘美な旋律をホールごと包み、時に地からのリズムで心揺さぶるピアノとのコンビネーションは、生でないと味わえない迫力でした。息子は、映画「タイタニック」の美しいテーマ曲や、リズムカルなりベルタンゴに声を出しながら聴き入り、とても楽しそうでした。会場は席間や換気などに十分配慮がなされており、安心して演奏を聴くことができました。



素敵な演奏を提供して下さった金関環さん、宮川真由美さん、心細やかな企画運営をして下さった父母の会役員の皆様には、心より感謝いたします。

素敵な演奏を提供して下さった金関環さん、宮川真由美さん、心細やかな企画運営をして下さった父母の会役員の皆様には、心より感謝いたします。

広陵町 増田康浩

「たまにはいいんじゃない?」と妻が申し込んでくれたので、最近葉加瀬太郎にハマっていることもあり参加させてもらうことにしました。

会場は300人は入りそうな広いホールに20組ほどが程よく点在、両側の非常口は開放されており換気もバッチリ、事務局のご配慮に感謝です。

前半はクラシックの名曲が続き神妙にしておりましたが、ツイゴイネルワイゼンが流れると、あの桑原和男さんの「神様っ!」を思い出して心でニンマリ。(平成生まれの人はYouTubeで検索!)後半はディズニーやお馴染みのタンゴの名曲がズラリと披露され、金関さんの軽妙な関西弁やコミカルな演奏と相まって次第に和やかな演奏会に。

印象的だったのは、大きく腕を挙げて懸命にバイオリンを弾く仕草をしている若者がいたこと。自然と身体が動いたに違いない。やっぱりビールと演奏は生に限りますね。

定年後はギターかピアノでもやりたいなどと密かに思っていました。帰り道家族に「バイオリンやりなよ」と言われ、半ば真剣に考えてしまった秋の一日でした。素晴らしい機会をありがとうございました。



~*~*~*~*~*~*~*~*~*~*~*~*~*~*~*~*

研修会
リモート講演「コロナ禍における障害児者の生活」

日時:2021年6月29日(火)11:00~12:00
場所:奈良県肢連事務局他リモート配信

講師:社会福祉法人滋賀県障害児協会

かいつぶり診療所所長 植松潤治氏

参加者:28名

奈良市 山本 真由美



全国的に緊急事態宣言下で、落ち着かない日々が続き、一般のワクチン接種もいつ開始されるのか、ワクチンの副反応についても心配ではあるもの

の、家族で相談をして、接種可能になった折には家族そろって接種をしようと決めていました。

我が家の息子は、注射が苦手なわけではありませんが、連日報じられる新型コロナウイルス感染症、ワクチン接種の副反応事例のニュースを見て自身のワクチン接種には消極的で「俺は、ワクチン打てる順番が来ても接種はしないよ!怖いから!!」と言っておりました。奈良市より息子のワクチン接種のクーポンが一般より少し早く届きました。時間をかけて息子本人が納得してワクチンの接種が出来る様にと折に触れて、何度も話をしました。その一方で接種して下さる病院を探しました。

家族でワクチンを接種しようと決めて嫌がる息子に接種を勧めている私自身も副反応の事例をニュースで聞いて実は不安を募らせておりました。一日も早く接種させたいとの私の気持ちとは裏腹に息子は、なかなか納得してくれません。子どもの頃なら本人の意思に関係なく親の一存で出来たでしょうが、20歳になった息子ではそう言う訳にもいかず、困っておりました。

植松先生の近肢連リモート講演会「新型コロナウイルス感染症およびワクチンについて私たちが知りたいこと」に参加させていただいたのはそんな時でした。

丁度その日、息子はお休みでリモート講演会を一緒に視聴いたしました。講師の植松先生が医師であり、滋賀県障害児者と父母の会連合会代表であられることは事前に息子に伝えておりました。

講演が始まると息子はとても真剣な面持ちで植松先生のお話に耳を傾けておりました。

植松先生のお話は新型コロナウイルス感染症についてと予防、それぞれのワクチンの種類の違いやワクチンの仕組み、接種をした時としなかった時のリスクについて、息子と私がワクチンに対して不安に感じていて、正に今一番知りたい事柄を、優しい口調で丁寧に分かりやすく話してくださいました。

講演会が終わり息子に「どうやった?」と聞くと「うん」と一言だけ返ってきました。翌日、息子の方から「ワクチン接種するわ!」と言ってきました。前日の植松先生の講演で息子がワクチン接種に対して正しく理解し納得をして出した結論でした。

今回、息子と一緒に今一番知りたいことを、医師として、また障害を持つ子を育てる親としての視点で、お話いただいた内容が息子と私の心に響きました。

このような機会に恵まれた事、企画をしてくださいました植松先生に、親子で心より感謝しております。



アーカイブ視聴

第54回全国肢体不自由児者父母の会連合会全国大会
(9月18日開催 東京都大田区産業プラザ Pio)

日時:2021年10月19日(火)12:00~13:00

場所:奈良県社会福祉総合センター研修室C

記念講演

「障害のあるお子さまの育成、医療的ケア児支援法について」全肢連顧問 衆議院議員 野田 聖子氏

参加者:25名

ご自身の妊娠出産から現在に至るまでの医療的ケア児を育てる母親の立場から話をされました。最後に「私たちの子どもの幸せな未来、弱者と呼ばれる人たちが笑顔で暮らせる国になるよう担い手になりたい。みんなで頑張りましょう」と締めくくられました。



勉強会

「奈良県重症心身障害児者の地域生活の支援に関する条例」について

日時:2021年11月2日(火)10:20~12:00

場所:奈良県社会福祉総合センター中会議室

講師:県障害福祉課理解促進係 係長 栄美恵子氏

奈良県重症心身障害児者支援センター 森口千夏氏

参加者:18名

奈良県重症心身障害児者支援センター

コーディネーター・看護師 森口 千夏

奈良県肢体不自由児者父母の会連合会の皆さま、
明けましておめでとうございます。

前田会長様をはじめ、皆さまには平素から奈良県の障害福祉行政の推進に、ご理解とご協力を賜りまして、厚く御礼申し上げます。

昨年は、障害福祉に関わる多くの方々との出会いがあり、たくさんの方を学ばせていただきました。また、人とのつながりや顔の見える関係の大切さに気づくことができた一年になりました。

今年も在宅の重症心身障害児者、医療的ケア児等とそのご家族が、身近な地域で安心して暮らせるように、支援体制の充実を目指し、邁進してまいります。ひとりでも多くの方に“重心センターができてよかった”“相談してよかった”と思っていただけるよう支援につなげ、皆さまとも顔の見える関係を作っていきたいと思っております。

事業を進めていくにあたり、在宅の重症心身障害児者、医療的ケア児等とそのご家族が増えているにもかかわらず、体制が整っていない現状が見えています。特に医療型短期入所の体制の希薄さは大きな課題です。

しかし、その少ない資源を有効に使っていただきたいと思っています。

皆さまは短期入所のための登録や診察はお済でしょうか。今までに

お話を聞かせていただいたご家族さんの中には、「レスパイトで子どもを預けると、子どもが体調を崩してしまうから、子どもにそんな辛いストレスを与えてまで、自分たちがゆっくりと楽しむことなんてできない。」「自分はレスパイトを利用しようかと思っても、家族から“なんで?かわいそうやん!”と言われるとレスパイトの利用はできない。」という方がおられました。最近では、新型コロナウイルス感染症の影響でレスパイトの利用を躊躇されている方も多く聞いています。



短期入所では、子どもさんが楽しくリラックスして健康に過ごせることが一番です。しかし、それには受け入れる側のスタッフにも子どもさんにも慣れてもらうことが必要です。普段から医療機関のスタッフとつながり、多くの人に知ってもらう。ご家族さんが自分たちでケアできている時から、その子のケアを伝え、できる人を増やしておくことが家族の役割であり、それは子どもさんと受け入れ側のスタッフの成長につながります。また、急な体調不良やケガした時などの緊急時への備えにもなります。

もちろん私たちも医療機関とつながりを持って、連絡協議会や研修会を開催し、短期入所の受け入れやよりよい看護・療育につながるよう働きかけていきます。そして、皆さまに安心して短期入所を利用いただける医療機関を増やしていきたいと思っています。

先日、センターに来ていただいたお母様から短期入所利用のご相談がありました。「歩けることになったことが、今から思えばよかったかどうか…」とおっしゃった言葉を聞いて、今まで一生懸命育児され、わが子の成長を喜んでこられたのに、大人になってから、こんな言葉を言わなければならない状況にあることが、悲しくてたまりませんでした。歩けるようになった喜びを今、後悔にしたいと思いませんでした。

ご両親様には「自分たちはよく頑張った。大きくなって社会に巣立って行ってくれてよかったね。」と安心してご子息を社会へ送り出し、ご自身の人生も楽しんでいただきたいです。それは障害があるないに関わらず、ど



このご家庭にでも言えることだと思います。どのご家庭でもいろんな悩みごとがあって、子どもへの心配ごとは尽きないのかもしれませんが、社会に巣立っていったよかったです。すべての人が安心して地域で過ごせる社会になってほしい、重心センターはそうなるように支援していかなければならないと改めて思いました。

重心センターはこれからも「条例や法案が制定されても、まずはみんなが当事者の目でできることから考えていかなければ、すべての人が安心して暮らすことができる社会にはならない」「自分が障害を持ったとき、自分が障害を持つ者の家族になった時に、人と人とのつながりのあるやさしい社会であるように、専門職でなくてもできることから考えていただきたい」と伝えていきます。そして、目の前に困った人がいる時には一緒に考えていきます。奈良県肢体不自由児者父母の会連合会の皆さまからのご意見をいただきながら、小さなことからコツコツと地域で支えていく体制を整え、奈良県の障害福祉が周りの地域に追いつけるよう取り組んでいきます。これからもどうぞよろしくお願いいたします。



近畿ブロック地域指導者育成セミナー

日時:2021年12月4日(土)10:30~15:30
 場所:兵庫県福祉センター(神戸市中央区)
 テーマ:「居宅、GHで生活する障害者の障害福祉サービス及び住まいの向上に繋げるセミナー」
 参加者:4名

大和高田市 吉良万里子

今回、セミナーに参加させてもらい有難う御座いました。主にグループホームの内容で、我が息子の将来に関する事を含めとても興味が有りました。現時点でグループホームの状況、利用されている方々の状態、設備とかは疑問に思う事もあったので、この研修で色々な事を

参考にさせてもらい、自分自身で息子の為に把握できればという気持ちが有りました。研修会の流れで色々な事が沢山分かりました。気になる事は、県外と私の住む市との間には、グループホームの場所、施設などの格差がある事実も知りました。話し合いの中で父兄達が立ち上げた各グループホームも有ると知り色々な情報も得ることが出来ました。

毎年、色々な大会やセミナーが有ります。そのような場に参加させてもらう事はとても有意義で、息子にかかわる将来の為に、真剣に見つめ考えていこうと思いました。障害を持つ方々の為にも、父母の会を通し、声を挙げる事の大切さ、皆様方と一緒に努力していかなければと思った事でした。



第16回南都諸大寺チャリティー墨書展

日時: 2021年9月11日~12日10:00~17:00
 場所: 奈良県文化会館 B 展示室

田口 美智子

2年に1度のチャリティー墨書展を奈良県肢体不自由児協会との共催で開催いたしました。



今回も、中宮寺、圓照寺の門跡様、法華寺門主様、東大寺、興福寺、西大寺、大安寺、唐招提寺、法隆寺、薬師寺のご高僧の皆様がご揮毫下さり、掛け軸・額・色紙・短冊・書画・コンテ画・パステル画・板絵・絵馬・絵葉書セット、合計435点の作品が出展されました。

お忙しい中ご揮毫下さった皆様、誠にありがとうございました。

今回は、例年の準備に加えて新型コロナ感染対策をしなければならず、検温器をお借りしたり、アルコール消毒や換気のためのサーキュレーターを各所に置いたり、来場くださるお客様全員の連絡先が必要な為、お客様カードを作成し受付で記入のお声がけするなど、例年とは違う作業がありました。これまでお客様へお出していた、お茶とお菓子の接待は行わず、テーブルをなくして、お客様のスムーズな流れができるようにしました。幸い、文化会館のご配慮でとなりの特別展示室もお借りできたのでお帰りの通路として使わせていただくことができ助かりました。準備は整ったもののお客様は来て下さるかどうかと心配しましたが、案内状の送付及び新聞、テレビでの報道をして頂いたことで、1日目は人数制限するほどとなり、2日間で約400の方がご来場下さいました。リピーターの方も多く、このチャリティー墨書展を楽しみにして下さり同時に子供たちのことを思い出して下さることを嬉しく思います。墨書展開催にあたり開催協力依頼、各寺院への揮毫依頼、報道関係各社への報道依頼など大きくお力添えをいただきました東大寺様には深く感謝申し上げます。準備からご協力いただきました吉川春陽堂様、笹川文林堂様、誠にありがとうございました。前日準備と合わせて3日間、会員の活動の為に子供たちのお世話を下さったご家族や事業所等の方々、ご協力下さった皆様に厚く御礼申し上げます。

今回のチャリティー墨書展での収益は会の福祉活動資金とさせていただき、一部は災害義援金、奈良県新型コロナウイルス感染症対策基金へ寄付、また子供たちがお世話になっている医療・教育・看護・介護関係機関へサージカルマスクの寄贈をいたしました。

第16回南都諸大寺チャリティー墨書展が無事終了出来ましたことは、ご支援、ご協力いただきました皆様の

おかげさまと感謝いたします。誠にありがとうございました。



宇陀市 山本 由美子

9月11日、12日に南都諸大寺チャリティー墨書展が開催され、ほんの少しお手伝いをさせて頂きました。コロナ禍に大丈夫なのだろうかと思いましたが、感染予防対策を徹底しての開催でした。私は販売を担当し、来場して下さる方も墨書展を楽しみに待っておられた様でした。毎回足を運んでくださる方との会話も楽しく、知識のない私の方が教えて頂いたりしていました。私自身、ご高僧の方々の作品を間近に拝見させてもらえる貴重な時で、まるでご褒美を頂いているようです。

私の子どもは、コロナ禍で2年近くショートステイの利用を控えてきましたが、お手伝いをさせて頂くにあたり利用をしました。送っていく時にはデイサービスに行く時とカバンが違うのを見て荷物を覗みつけて泣いていました。正直に言えば疲れましたが、それ以上に楽しめました。たくさんの元気をもらって最終日の帰る足りは軽く「お母さん頑張ったよ」って子どもを思いきり抱きしめることが出来ました。

何をするにも課題はたくさんあると思いますが、ひとつずつ乗り越え次に生かせるのだと感じました。それぞれの立場の方々に支えて頂き感謝を込めて、ありがとうございました。



第8回奈良まほろば館チャリティー書画展

日 時： 2021年12月11日～12日

場 所： 奈良まほろば館(東京新橋)

事務局 宿利 浩章

2020年はコロナ禍のため中止され、今回も開催が心配されましたが、東大寺狭川普文別當様の力強い後押し、東大寺福祉事業団の平岡慎紹常任理事、事務局



川口様、更には奈良まほろば館の皆様方のご協力のもと、無事開催を終えることができました。

曲線壁が多く、展示が難しいと思われた展示スペースも、狭川別當様のアイデアとご自作による展示アイテムによって、思いもよらない素晴らしい展示となりました。

おかげさまで、予想を上回る収益が得られたことも、すべて皆様のご尽力の賜と感謝しています。また、多くの方にご来場頂けたのは、障害者チャリティー活動を知って頂く良い機会になったと思います。



感染予防用マスクの寄贈先から

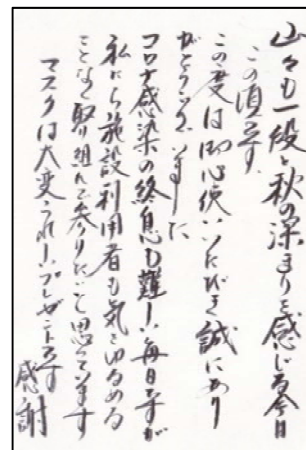
第16回チャリティー墨書展での収益の一部を日頃私たち会員の子どもたちが日中お世話になっている事

業所等約50か所にサージカルマスクを寄贈させていただきました。それぞれの事業所が新型コロナ感染予防対策を取りながらも利用者向き合い大変苦しい運営の中ご苦労があったことと思います。現在では感染者が減少傾向にありますが、まだまだ油断できない状況です。事業所様から、心温まるお礼状やお電話をたくさんお寄せいただきましたので、一部紹介します。

「このたびは、沢山の貴重なマスクを職員に頂戴し、誠にありがとうございました。コロナ禍のなか、利用者様には、大変ご不便をおかけしています。もう少し落ち着いたら平常時の毎日を送れると期待していますが、いつその時を迎えられるのかまだまだかと感じております。そんな状況の中でのマスク装着は、必然でありまして、大変ありがたくスタッフ一同喜んでおります。チャリティー墨書展での貴重な収益からのお品、本当にありがとうございました。」

「今回、このようにまことに時機をえた貴会からの貴重なマスクの寄贈を受けたこと、感謝に堪えません。このマスクを、この激励を受けたスタッフ一同のパワーとさせていただきます、まだまだ続く不安と閉塞の中、事業所の万全の感染症対策は勿論、そこに心をこめたエモーショナルな支援を、この地域で暮らすご利用者様に提供を続ける継続の糧として、活用させていただきます。」

「この度はご寄贈をいただき、利用者・保護者・職員ともども心より御礼申し上げます。頂戴いたしましたマスクは、当会運営の施設・居宅サービスなどをご利用いただいております障がいを持つ方々の生活充実のために有効に使わせていただきたいと存じます。



和気 あい あい



生活介護やすらぎ広場

施設長 中川 雅揮

やすらぎ広場は、「奈良市心身障害者福祉作業所（現・生活介護みどりの家）」から平成10年4月に独立し、奈良市総合福祉センターの2階に開設されました。平成24年4月には「生活介護やすらぎ広場」として新たにスタートし、現在12名の方が通所されています。通われている利用者さんは、ほとんどの方が車椅子での生活が中心の人たちです。

日常の活動は創作活動やレクリエーション、音楽療法、調理活動、機能訓練などを行っています。創作活動では季節ごとのテーマを決め、福祉センター内のスロープの踊り場に飾るディスプレイを作っています。また、奈良市や奈良県の作品展にも出展し、時には優秀賞をいただく事もあります。出来ることはそれぞれ違いますが、工夫しながら皆で作品を完成させ、共に作る喜びを体感していただいています。音楽療法では、2名の音楽療法士による季節の歌や楽器演奏などを通じて楽しい時間を過ごしています。その他、特別プログラムとして館外活動や外食体験があります。館外活動は公共交通機関を使ったり観光バスで外出します。外食体験は近隣のフードコートや、普段近くにあってもあまり行く機会がない飲食店などで食事をします。このように日常の場から離れ外出や外食をすることで社会参加の幅を広げ、生活の質の向上を図っています。現在はコロナ禍のため外出系のプログラムは控えていますが、状況が落ち着いた際には再開したいと思います。

また、近年は医療的ケアを必要とされる方が増えてきているように感じます。やすらぎ広場においても経管栄養や喀痰吸引など日常的に医療的ケアが必要な方が3名通われています。そのような方にも安心して通っていただけるよう看護職や研修を修了した職員の配置に努めています。

重度の障がいを持った方それぞれのニーズに合った活動の場づくりに取り組み、皆さんが充実した日々を過ごしていただけるよう今後も取り組んでいきたいと思っています。

最後になりましたが、父母の会連合会のますますのご発展と皆さまのご健勝、ご活躍をお祈り申し上げます。





王寺町 高岡 雅子

哲也、予定日より10日遅れ、居心地がよかったです。生まれるも泣き声が聞こえてきません。保育器という言葉が聞こえ、小児科へ当日先生より肺炎と鎖骨骨折があり、後は子供の生きる力です。と説明を受けました。そのようなスタートでしたが、2週間で退院しました。4ヶ月検診の時に整肢園を紹介して頂き診察を受けました。「訓練をして、様子を見ていきましょう」というお話、足取り重く帰宅しました。家族で話し合い「暗くしても一生だよ、明るくいこう」と前を向くことにしました。幼児期に、大阪へ訓練場所を変更し、勤務のように通っておりました。一日でも休めば子供に影響がなどと思ったこともありました。「今は思いません」

小学部に入塾して、お友達、先生とのやりとりが多くなり。毎日楽しく通学していました。中学部三年生の時に書道に会い。小さい字しか書けなかった子が半紙に向かって大きな字を書いている姿は不思議な光景でした。20数年続けることが出来たのも多くの方々の支えがあったからです。作品展は、僕の仕事、みんなに会えるから開くといつも言っています。

二十歳を迎える頃、もう一つの生きがい、電動車椅子サッカーに会い、スポーツは見るだけの世界から電動車椅子を自由に動かして、走り回れる世界を知りました。本人のみならず家族にも衝撃的な出来事でした。サッカーというスポーツに魅了され東へ西へと車を走らせてきました。その間に一時期将来を考えて入所もしてみましたが、『今』を考えて退所を選択しました。自宅から事業所へ電車で通うことになり、入所から自宅へ言うことで役場、支援センター職員の皆様にご心配をかけ、しっかりサポートして頂きました。通所が始まり、二日間は家族と西田原本へ電車で、三日目からは一人で乗車することになりました。(少し不安?)それも乗り切りました。体調不良により、駅員さんにご迷惑をおかけしたこともありましたが、哲也には自信になったようです。

親亡き後、どうするのか?課題は山積みです。今後、新しいステップがあれば、挑戦するつもりです。たとえ失敗しても親が受け止められる体力と気力で乗り切ろうと思います。

今までも多くの方々にお世話になり生活して来ました。ありがとうございます。これからも皆様のお力をお借りしながら、充実した生活をおくれるように努力したいと思います。よろしく願いいたします。



高岡哲也さん書

はあとの生活介護の
利用者の合同作品

「古都の秋」



全国肢体不自由児者父母の会連合会結成60周年記念表彰者・感謝状贈呈

《長期役員功労者》(以下敬称略)

松本倫子(奈良市) 桑原逸子(上牧町) 筒井英子(大和郡山市) 北川佳代子(田原本町) 菰口悦子(元事務局長)

《一般協力者》 福祉の店わかくさ

《模範更生援護功労者》 松本倫子(奈良市)

《模範自立更生者》 桑原恒子(上牧町)



相談役 松本 倫子

前田会長の推薦を得て、6名と1団体が全国肢体不自由児者父母の会連合会(以下 全肢連)から感謝状・表彰状を受授しました。各自の家にA5サイズのかわいい額装された賞状が届き、小さいけれど中身は重く、どこにでも置くことが出来てありがたいです。役員をしておりました20年から30年の皆さんとの活動に思いを巡らし、感無量でございます。受彰者を代表しましてお礼申し上げます。ありがとうございました。

長年の役員の功績として受彰された桑原さん、筒井さん、北川さん、松本と事務局の菰口さんは、元会長の梅本さんと野田さん達が築いてくださった父母の会の基盤の上に、拡大・充実した父母の会の活動を繰り広げてまいりました。子どもが養護学校卒業後に通う場所のない時代でしたから、作業所などの通所場所作りから始まりまして、今の障害者の事業所や施設に繋がっています。地域の行政に私たちの子どものことを理解していただくことから始めなければならず、物が言える親になるために、県肢連はめまぐるしく変わる福祉情報の勉強会をよくやりました。また、地域の父母の会から上がってくる要望を県行政と全肢連に繋げることで、そして私たちの活動を支えてくれる人を広く求めました。事務局長だった菰口さんは、内外の人脈を深めてくれたと思っております。そして行政、養護学校、東大寺さんたちの繋がりが深まりましたし、支援していただく輪が広がりました。親たちは子どもを養護学校に送り届け、そして迎える間の数時間が活動の時間という大変忙しい状況でしたが、活動の中に熱心さと生き生きとした姿がありました。

模範自立更生者を受彰された桑原恒子さんは、明日香養護学校卒業後、東京での訓練を経験し、奈良の自宅に戻って、大阪市北区の企業に就職され、自宅から電車で通勤されています。目下、コロナ禍で自宅でのリモート勤務とされていますが、午前9時から午後5時の勤務時間、1時間の昼食の休みを除いてコンピュータの前で座っておられる姿を見ると、凄みを感じるぐらいです。

「わかくさの店」は、その頃企業で働けない人の働く場所作りを目指して、前述の梅本さんと野田さん達が大変苦勞されながら、昭和60年ならファミリーに、翌年には近鉄百貨店橿原店に「わかくさの店」を作ってくださいました。その後、福祉制度が変わっていく中、生き残るためにどうしていくか、何回も議論を重ねました。ちょうど作業所の補助金がなくなった頃、NPO法人わかくさもえぎを設立して、そこでこれらの店を運営することに決まりまして、県肢連から離れました。創設当初から通っている人もいますので、およそ40年働いていることとなります。現在、パスポートセンターの横で証紙・印紙の売りさばき所として、20年ほど続けていますが、林田さん(奈良店)、田原さん(大和高田店)の両店長さんが障害者の特性をよくわかってきて、利用者は毎日元気に公共交通機関で通ってきます。市民の皆さんとの対面、そしてたくさんのお金を預かることから、利用者は真剣に仕事をしていて、彼らの生きがいの場所として今も大きな役割を果たせています。ただコロナ禍の中、海外旅行が減ってきましたので、売り上げが大変減少している上、パスポートのデジタル化が進むと、私たちの存在価値がどうなるかというのが今の課題です。商業施設内でこのように40年近く続けているのは、全国的にもまれだと思いますが、よく作っていただいたと感謝しており、全肢連からも感謝状をもらえることを大変嬉しく思います。

私自身を振り返ると現在78歳、息子52歳。息子は中川会に35歳からお世話になって17年、この間、6回の入院加療を経験し、意思疎通もままならないところがありますが、皆さんによく面倒見てもらって元気でいられるからこそ、安心して入院できたと感謝しています。

そして今、障害者の高齢化と、親の高齢化の課題がどんどん深刻になってきています。私も福祉サービスを受ける身になりました。弱いところを持った私達父母の会の会員は、一生懸命動きながら県肢連の活動のおかげで強くなりましたし、心から許せる仲間ができました。それが一生の友達にもなっています。何よりも、夫を始めとして家族が私を支えてくれましたこと、心から感謝いたします。

子どもがたくましく生きる姿が支えとなり、彼らの生活をより充実させるために、ずっと動いている父母の会です。

県肢連の益々の充実と会員の皆さんのご健康とご多幸をお祈りいたします。



～湯井さんの福祉防災アドバイス②～



避難の際に活躍する「SOSカード」

「避難」という言葉には「安全な場所への移動」と「安心な避難生活」という2つの意味があります。早期のスムーズな避難行動のためにはどのような支援が必要で、健やかな避難生活のために何を準備しますか？

これらの情報をできるだけシンプルにまとめたSOSカードを平時から準備しておきましょう。本名の代わりに日頃から呼ばれ慣れたニックネームや困りごとに対する支援策を記入することで、デリケートな個人情報を第三者と共有せずとも、避難に必要な情報をまとめることができます。また、好きなこと、得意なことを書いておくと、お子さんにとって嬉しい支援が受けられることにつながります。（一般社団法人福祉防災コミュニティ協会 湯井恵美子氏より）



東田拓己さん
大和高田市

事務局長交代のお知らせ

約2年間事務局で会活動を支えていただきました阿部宜子さんが昨年12月末をもって退職されました。コロナ禍真っ只中での会活動は、対面での会議等の開催もできませんでした。オンライン会議やデータの共有など、彼女によるIT化等により合理的に活動を進められるようになったことは大きな功績です。阿部さんの功績に感謝し、新天地での益々のご活躍をお祈りいたします。

1月より、宿利浩章さんが事務局長に着任されました。当会の会員でもあり今までも50周年記念式典や墨書展の図録作成等で助けていただいております。会のことをよく理解して下さっています。2024年には奈良県で全国大会を開催する予定です。これからの3年間はその準備も並行して進めていかなければなりませんので、宿利新事務局長さんの社会で培われたお力を発揮して頂き、共に頑張っていきたいと思っております。

(会長 前田 妙子)

奈良県知事表彰

おめでとうございます

更生援護功労者
漸井みゆきさん



宗教法人円応教 円応教青年会様より

2021年7月9日、120,911円ご寄付をいただきました。
誠にありがとうございました。

アステラス製薬株式会社様「フライングスター基金」より

社会福祉法人 あけび(生駒市)に車いす送迎車が寄贈されました。

***** 編集後記 *****

1996年11月、広報誌第1号が発行され2022年1月で50号を迎えました。広報誌は行事報告だけでなく会員の思いが詰まった私たちの財産ですね。皆さんにこれからもお届けできますように頑張ります。今年も良い年でありますように♡

今後の予定

◆第53回奈良県肢連総会

日にち:6月2日(木)

場所:奈良県社会福祉総会センター5階

◆第56回近畿肢体不自由児者福祉大会

日にち:6月4日(土)

場所:滋賀県守山市

◆第55回全国大会第57回東海北陸ブロック大会

日にち:9月10日(土)~11日(日)

場所:ロワジュールホテル豊橋(愛知県豊橋市)